
けやき

令和4年度

6月号

NO. 542

練馬区立南が丘小学校

校長 後藤京子

読書の楽しみ

校長 後藤 京子

本校では、6月、11月、1月と年に3回、読書旬間を設定しています。今年度第1回目は、6月6日（月）から17日（金）です。読書旬間では、コロナ禍ということで、図書委員会の子供たちが、昼休みの図書館開放の代わりに移動図書館を行っています。本の内容をクロスワードのクイズにしたり、くじを作り、結果によって景品をあげたりと活動に様々な工夫をしています。中には、図書委員会のお兄さん、お姉さんにもらったしおりを筆箱に入れて、大切にしている子もいます。読書旬間は、本の楽しさ、おもしろさを知らせるとともに、読書の習慣を育てる機会と考えています。また、保護者や、地域ボランティアの方々による、朝の読み聞かせは、子供たちを空想の世界へと引き込んでくださっています。今年度は、本に親しむとともに、主体的な知識・情報の獲得、考えの伸長を目指して、毎月4日間の朝読書を設定しています。

2021年学校読書活動調査では、小学生が5月に読んだ本の冊数の平均は、12.7冊だそうです。中学生は、5.3冊、高校生は、1.6冊、不読者は、小学校が53.5%、中学生で、10.1%、高校生は49.8%です。小学生でも少ないと思っていた所、年齢が上がるにつれて、スマホやゲーム機でゲームをしたり、YouTubeを見たりすることが多いのか、ほとんど本を読むことがなくなっているようです。確かに、通勤の電車の中でも、本を読んでいる人は、1車両に1人くらいでしょうか。

今年の2年生は、1年生の時に、たくさん本を読んだ子がいます。1番たくさん読んだ子は、300冊以上だったと聞いています。たくさん本を読んだ子は、きっと、「想像する力」がより大きく、そして深く、そして広くなったと思います。言葉の遣い方も豊かになったことでしょう。

保護者の方々にも、ぜひ、子供たちと一緒に本を読む時間を取っていただき、感想を伝えていただいたり、新しい本を紹介したりしていただけることを願っております。

「良書を初めて読む時は、新しい友を得たようである。前に精読した書物を読み直す時は、旧友に会うのと似ている。」オリバー・ゴルドスミス

みなさんは、今年、どんな本と出会うのでしょうか。